

会 議 要 旨 (全文録)

会議の名称	印西地区環境整備事業組合 印西地区ごみ処理基本計画検討委員会 第3回会議
開催日時	令和4年7月10日(日)午後2時00分開会
開催場所	印西地区環境整備事業組合 3階 大会議室
議長(委員長)氏名	大迫 政浩(国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環領域 領域長)
出席者(委員)氏名(人数) 敬略称、順不同	大迫 政浩(国立研究開発法人 国立環境研究所 資源循環領域 領域長) 中山 育美(公益財団法人 廃棄物・3R 研究財団 企画部 上席研究員) 村上 重徳(公募による選出) 鹿目 修(公募による選出) 梶山 正信(公募による選出) 福島 壽彦(公募による選出) 池田 久美子(公募による選出) 小熊 清(印西市廃棄物減量等推進審議会委員) 山谷 修作(白井市廃棄物減量等推進審議会委員 副会長) 角鹿 智章(印西市立高花小学校 校長) 坂野 仁(白井市立白井第一小学校 校長) 寺内 勝也(栄町立布鎌小学校 校長) 祢津 俊之(イオンリテール(株)イオン千葉ニュータウン店 人事総務課長) 平川 昌宏(進光園緑化(株) 代表取締役) 船越 勝行(日本食研ホールディングス(株)千葉総務部 次長) 計15名
欠席者(委員)氏名(人数)	福本 朋子(栄町廃棄物減量等推進員) 計1名
事務局	印西地区環境整備事業組合(印西クリーンセンター) 勝田 博之(工場長)、渡辺 祐(主査補)、長沼 徳雄(主査)、海老原 雅美(副主幹)、大野 喜弘(副主幹)
市・町	組合関係市町 藤巻 孝(印西市 課長)、竹田 忠夫(白井市 課長)、 塩崎 一郎(栄町 課長)
コンサルタント	コンサルタント 応用地質株式会社(3名)

発言者	内容
次第1 開会	
司会	定刻となりましたので、これより第3回検討委員会を開催させていただきたいと思ひます。大迫委員長より挨拶をお願いいたします。
次第2 委員長あいさつ	
	(大迫委員長あいさつ)
次第3 議題	
委員長	<p>それでは、早速議題のほうに入りたいと思ひますが、その前に本日の議事録署名のお願いをさせていただきたいと思ひます。池田委員と小熊委員にお願いできればと思ひます。よろしくお願ひします。</p> <p>では議題に入ります。(1)印西地区環境整備事業組合のごみ処理の課題について、事務局のほうからご説明よろしくお願ひいたします。</p>
事務局	(1) 印西地区環境整備事業組合のごみ処理の課題 説明
委員長	今事務局からご説明いただきましたが、最後の方で皆さんの意見等を伺いながら、更にはその現状の課題認識を深めてアップデートしていきたいと思ひます。それでは今のご説明を踏まえて、ご意見等を伺いたいと思ひますがいかがでしょうか。
鹿目委員	事務局から最後に追加みたいな形で申していましたが、その中でやはり食品ロス削減の追加は必要だと思ひます。と言ひますのも国が掲げておりますSDGs、貧困を無くすとか、誰もが取り残されないように、そういう方針が出されていますので、生活が出来ない人もいますし、具体的には、これは難しくて、事業者・企業側、それを作る側、販売する側、消費する住民、あとは取りまとめを行い情報発信する行政の三位一体で共同で取り組むことが必要であると思ひます。その辺りを踏まえて、追加するのがいいと思ひます。
委員長	ぜひ食品ロスの問題は、最初の方の説明でも記載が足りないところもありましたので、食品ロスの問題、また現状の数字的なものの理解を整理しておきたいというところと、それから施策としてもどういったことをやっけていて、施策として十分・不十分というところの認識なども可能な範囲で入れていただくと次の施策に繋がるのかなと思ひます。
山谷委員	印象としまして、この発生抑制の推進等、こちらは組合としてはごみ処理を行う側ですので、どうしても分別というところが強調されるのかも知れませんが、これまでもして来たのかもしれないが、やはり一番重要なのは発生抑制のところ、書いてある文章を見ますと、2段目などは分別とか水切りで、2のリサイクル率の向上のところでも分別については触れておられますので、発生抑制の推進とありますけれど、実質的には分別をきちんとという流れになっています。発生抑制の推進ということ言えば、やはり住民のごみ減量への意識と行動が一番重要でありまして、市町と連携しつつ息の長い取り組みとしては環境教育もありますし、啓発ということもあると思ひますけれども、啓発の効果をあげるような施策などもあると思ひます。それをこの辺りに埋めていった方

	<p>が発生抑制の推進になるという気がします。</p> <p>そして、家庭系ごみ・事業系ごみの文章が数行あるけれども、排出状況や問題指摘に留まっていますが、やはりこのコラムの中でも広報・啓発活動のところにも状況が少し書いてあり、「～の必要がある」というようなことで課題的な対策の必要に触れているけれども、家庭系ごみと事業系ごみのところにも、状況だけではなくこういうことが必要だという、分別だけでなく、一番重要な意識・行動の変容に触れる必要があるのではないかと思います。</p> <p>2のリサイクル率の向上のところですが、「分別の徹底」と出ていますが、現状とそれからその状況を踏まえて、こういうことが必要である、課題であるとか、そういうことからすると、この文章を少々変える必要も出て来ると思います。3行目のところで、「リサイクル率の向上のためには～が求められる」、これをこの文節の後に持ってくる、そうする方が収まりが良いかと思います。</p> <p>私は文章にはうるさい人間なのでちょっとと言わせていただきますと、2ページのところ、2つ文字が出て来ますけれども、「設備事業」とありますが、これはやっぱり一般には「整備事業」だろうと思います。それから3ページ目、7の感染症のところですけども、黒い四角があって、「感染症流行時の施設の『適切な』運営」の方が良いかと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。現状を書くだけではなくて何かが必要だと、施策に関するところの課題等も含めて、何が必要だというところの記載をそれぞれ入れていかないと次の展開も見えないというところもあろうかと思いますので、ご意見ももっともかと思えます。発生抑制のところ、そういう流れで行くと、有料化というキーワードは必要ないでしょうか。</p>
山谷委員	<p>先ほど言いました、ごみ減量意識、それからそれを行動に結びつけるというところが一番問題という意識、そういう考え方で行けば、有料化を検討、有料化して自分事としてごみ減量を受け止めてもらって、そうすると啓発の、自分事ということで、効果がかなり高くなっていくと。やはり発生抑制ということになりますと、こういうことが非常に重要だと思います。従いましてもう組合は持って来られたごみを処理すればいいという考えではなく市町と連携しつつ、今委員長がおっしゃったように経済的手法を活用して発生抑制に繋げていくというようなことで、有料化の検討をするというようなことに触れるのは非常に一歩二歩前進になるのではないかと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。組合が策定するごみ処理基本計画という、組合としては、構成市町で集まったものを処理するという、分別収集の部分が一部あるかとは思いますが、そういうところが中心であるにしても、やはり構成市町と一緒に全体の方向性を作り、共有していくというためにこの議論はあるんだというふうに思います。そういったところまで踏み込んだ議論をしないと、何のためにこの場があり、皆さんに集まっただいただいているのかということもありますので、組長さんでもあり印西市長からも諮問をいただいているので、委員会は委員会としての見識で、そういった意見も入れるべきということと言</p>

	<p>っていかないとも何も先に変わっていかないというところもあります。ぜひ建設的なご意見等いただければというふうに思います。他にいかがでしょうか。</p>
<p>小熊委員</p>	<p>重複するかも知れませんが、最初の発生抑制のところの家庭系ごみの増加傾向のところはしょうがない話ですけれども、事業系ごみのところの「資源物の一部が資源化されず」というふうな文言がしっかり書かれています。これは資源化されてなく混ざっているということを経験さんとしては認識している訳です。それを逆に捉えて、次のところのリサイクル率の向上のところの途中から下がったところで、「また、事業系の云々」のところになってくる訳ですが、「処理量削減の観点から事業者に分別排出を推進し」という言葉を使っていますが、この「推進」は「徹底」になるべきだと思います。混ざっているということを経験さんとしては認識している訳ですから。そしてその辺りの「更なる資源化を進めるよう啓発していく」のではなく、ここも「指導」になるべきだと思います。お願いだとか啓発だとかではなく、もう認識している訳ですから、変えるべきかだと思います。そんなことを感じました。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。いろいろと打ち出す施策の強さというか、そういったところとも関連させた言葉も今後考えて入れるべきかだと思います。有料化の話も事業系の受入料金が適切かという議論が必要であります。そうなりますと経済的なところでの比較的強い施策という意味合いもありますので、啓発という言葉からはもう少し歩進んだ話にもなるかと思いますが、直ちにそういう施策が必要だということの議論は慎重に行わなければいけないと思いますけれども、そういう言葉も、具体的な施策とセットで大事に考えながら整理出来れば良いと思います。他にいかがでしょうか。</p>
<p>福島委員</p>	<p>私は住民ですので家庭系ごみを発生させている一人ではある訳ですけれども、5、6年くらい前に自治会の役員をやっていたことがありまして、環境部ではなかったけれども総務をやっていました。全体的な自治会を初めて経験した中で、前回栄町が集団回収の数字が、印西市、白井市から比べるとかなりいい数字だということがありました。高齢化ということで、ご多分にもれず自治会の運営も高齢化によって内政が厳しいところがあるので、栄町は今の集団回収の数字がどこまで継続していけるかと考えるところもあるんですけれども、そういう中で減量ということになるべく出さないようにしている。私は日焼けをしているんですが、若干のゴルフと家庭菜園を手広く畑を借りてやっている。うちで出て来る厨芥類、生ごみ系は極力畑の方に穴を掘って埋めて、堆肥にもなるので、そういった形で減量に努めているつもりではいるんですけれども、やはり何より先程あったような減量への住民の意識ですが、意識というのはやはり皆さん、そういったものを目にするにつれ分かっていると思うんですけれども、実際のところはやはり、先程お話した集団回収といったことを実際体験されて、数字や奨励金とかお金になる物もありましたけれども、そういったものがあって初めて、やはり言うは易く行うは難しということだと思いますので、そういった機会を増やしていけば徐々に皆さんの意識もついてい</p>

	くのではないかと、私自身の経験からいうとそういう気がします。
委員長	<p>ありがとうございます。集団回収の問題は色々な社会的背景があるかも知れませんがどんどん減少してきていて、今後どうするのかどうしていくべきなのかというところは、大変重要な視点だと思います。後程発生量の予測等出て来ますけれど、資源物の回収量というのは、行政が回収している分は栄町は少ないです。どこにいつているかというところと集団回収の方で集められていて、集団回収物と資源物を足すと、印西市や白井市とそれほど変わらないリサイクルの駆動力になっているという状況があります。それから栄町は他のところと違って有料化を進めておられるということで発生量も若干、印西市では相当程度低いですが白井市とはそれほど大きな差はないですが、発生量にも有料化の効果が見て取れます。それと集団回収というところも含めて、地域特性が違うかもしれませんが、生ごみとかも自分の庭でという対応も出来るということも効果として影響しているかも知れません。そういったところを見た時に、もう少し数字の書き込みというか、どういう施策を今後考えていくべきか、それはどれくらい効果がありそうかというところの中で、現状の数字の捉え方の各構成市町の比較等も含めながら、もう少し書き込んでいってもいいのかなということも思っています。集団回収の点もまさにそういったことかというふうに思っています。他にいかがでしょうか。</p>
鹿目委員	<p>発生抑制の推進、家庭系ごみの中で水分が多く含まれているというのがあります。分析結果から 62.4%ですか。こういうのは組合の検査結果なんですか。この数字はどうなんですか、まだどれくらい不十分なのか、それを見極めるためにも全国平均や理想とする完成率はどのくらいなのか、そういうのはどうなんですか。そういう数字的なものが欲しいです。そうするともっと努力しないといけないとなるので、その辺はいかがでしょうか。</p>
委員長	<p>確か記憶だと前回の計画を作る時も、水分量が現状はこれで、千葉県などからのこんな調査からこのくらい減らせるんじゃないかという結果を元に、これくらいまだ努力出来るんじゃないかという数字を設定した記憶があるんですが、その 62.4%もスポット的なデータでどこまで代表性があるのかということもありますけれども、まだまだ水分量としていろいろな対策も含めて十分な効果が出ていないという認識でしょうか。定量的に見た時に。なにか参考となる情報はございますか。</p>
事務局	<p>今ご指摘いただきました通り、現計画の重点項目の中で、数値目標を掲げられておりますので、ご指摘いただいたように目標に対して現状どうなっているのか記載出来ればと思いますので、そういった視点は入れていきたいと思えます。</p>
委員長	<p>またその辺りもフォローをお願いします。他にいかがでしょう。</p>
梶山委員	<p>今の意見の根本なのかと思いますが、課題と言っていますけれど課題がありきになっています。発生抑制自体が必要ないということではないですが、今ご指摘にあったように現状の数字があつて、目標があつてその差分を問題と</p>

	<p>言うんです。委員長はお分かりだと思いますけれど。それをどう解決するかというのが「課題」なんです。だから、現状のデータが示されない限りは、はっきり言って目標が示されていない以上は、どこに問題があるのか分からない、課題があるのかも分からない。ただ課題として発生抑制と言っていること自体がダメだというつもりはまったくなくて、現状これまでの議論の中で増えているということがあるので、そこに対する懸念はありませんが、まずそういう意識をもって作っていただきたい、ということが一点。</p> <p>もう一点は、広報啓発活動は当然気持ちがあるところに乗らないと本当には啓発は行われないと考えられます。それに向けてやるのがこれはあくまでも手段で目的でも目標でもありません。だから手段がそこにあるだけなので、最適なリソースで最適の効果が出る普及啓発なり、普及啓発の手法なりを考えないと物事の解決には向かえないです。そこはちゃんと考えた上で議論した方がいいというふうに思います。</p> <p>大変素晴らしい視点だなと私が思ったのは、3の「高齢化社会への適応」とありますけれど、これは素晴らしい視点で、普及啓発も含めてですが、横断的なことだと私は思っています。これは全体的に横断的なことだと思うので、こういう新しい視点というか、多目的な視点を受けて冒頭に言われたようにSDGs、そういうことも踏まえて脱炭素社会の実現という、既に半分まで減らさなければいけないと言われている目標が2050年に掲げられている訳ですから、それにどう向かっていくか、この印西地区もどう向かっていくか、というそういう目標も掲げて次の資料になるのかも知れませんが、行っていかなければいけないんじゃないかというふうにちょっと感じましたのでお話をさせていただきました。以上です。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。目標があつて現況があつて差分の問題があつて、それでそれを施策として何が足りなくてどうしていけばいいのかという課題がある。課題というと、英語でも issue だとか challenge だとか、challenge と言えばどうこれにチャレンジしていくのかというような意味もありますので、そこら辺の意識分けをしながらきちんと書いていかないと、ふんわりと書いていっただけでここから今後どういう施策を打ち出していけばいいのかというところのメリハリと言いますか、優先順位も見えないですし、優先順位という面ではどういう最大の効果を出すような施策が欠けているのか、今のご指摘も大変重要かと思いました。</p>
船越委員	<p>先程、問題・課題というようなご意見があつたと思いますが、私も正にそう思っていて、この中にやはり問題である、悪さがこれだけあるという問題と今よりも良くしないといけないという課題が混在していて、分からない、本来であればレポートとしては内容としては非常にいいんですけど、レポートだけではなくて現状はこうだということをきちんとデータで示していただいてそれを皆さんと共有して、この現状を打破する、悪さをもっと良くするというのをどういうアイデアを出して解決していくかということを出していければ</p>

	いいんじゃないかと思います。
委員長	はい、ありがとうございます。たぶんこれは国の示すマニュアルみたいなものももしかしたらまだまだ不十分かと思いますが、この第4章の前に前回の検討委員会で共有いただいたように2章、3章のところで数字とかが出ていて目標とどう差分があるのかという認識がされた中でこの第4章が書かれてあると思いますけれど、本来やはりご指摘の通り、今みたいな問題、課題、あるいは定量的なものの問題意識をきちんと共有出来る書き方がされていないと、次の議論が進みにくいので、是非ご指摘を踏まえて、最大限何とか努力して浮き彫りにしていかなければと思っています。
鹿目委員	4の「中間処理施設の運営」のところで、新しい施設、「次期中間処理施設整備事業に向けて」のところなんですけど、現在新しい施設の規模は156t/日で進められていると思いますが、今回の見直し計画でこれの変更はあるんですか。 つまりは前回の計画では「5年後の見直しで検証が必要である」という旨の文言が書かれてある訳です。つまりその場合、新施設事業の建設は国の補助金でやらざるを得ないと思いますが、その場合数社のメーカーから見積もりを取って、そのための要求水準書などを作ってやると思いますが、その辺の時期に間に合うかどうかも含めて今年度はどういう位置づけになるのか、そして実際国への補助金の申請はいつなのかとか、そういうスケジュール的なことについて説明をお願い出来ますか。
委員長	大事なポイントだと思います。事務局の方がいかがでしょうか。
事務局	施設新設の規模につきましては、このごみ処理計画の将来推計ですとか、そういったものを元に施設規模の算定を行っていきます。ということなので、156t/日ありきですとか、それを変えるのをありきとかそういうことではなくて推計を見て、それから減量していく施策の状況を見て達成出来そうな実現性のある計画の中で施設規模の方は総合的に判断させていただければと思っています。 また施設規模の関係等のスケジュールは、今年度につきましては、今156t/日の施設規模でメーカーさん等と実際に発注する場合はどうかというような打ち合わせは行っております。最終的な決断につきましては今年度検討して来年度の入札に当たる決定事項になってくるのかと思っています。以上です。
委員長	今年度のごみ処理基本計画の業務は重要でございますので、そういったところも反映させていくというところでございます。 まだあると思いますが、他にいかがでしょうか。
坂野委員	先程あった長い目を見た環境教育で、学校という立場で、現状報告ですけど、小学校ではごみの問題は4年生で勉強していきます。本校の4年生も先月2年ぶりになりますか、当センターを見学させていただいて、もちろん子供たちはごみの処理等いろいろと意識を高めていったんですけども、白井市では「白井でできるSDGs」ということで、各小中学校を1グループにして夏休みに集まって、環境問題に限ったものではないですが、自分たちが選んだテーマ

	<p>について説明や発表していくということをやっています。6年生もそれで今いろいろ調べています。私がこの会議に出ているという話をしたら、「校長先生、ごみの処理についての資料はいろいろありますか」と聞いてきて、こんな資料あるよとちょっとは校長らしいことができたかなと思ったのを覚えているんですが、いろんな場面で環境に対しての取り組みというのは小学校でもやっていて意識は高まっていると思いますが、ただ学校で出るごみとなると、さっき言っていた分別で考えると、基本紙のごみくらいしか出ないんです。なかなか分別というのは、使わなくなった紙に関してリサイクルに回す、もちろん個人情報が入ったものは使いませんが、そういう意識はあるんですが、やっぱりいろいろ考えたことを家庭に持ち帰らせることが必要だろうなど、そういうことでその辺りを取り組んでいかなければならないなと思います。</p> <p>あと資源ごみの回収で、有価物回収をうちの学校でもやっています。うちは学校に持ってきてもらいますが、この4月から鉄類やビン、缶だとかそういうものの回収を業者がしなくなって紙と布だけになってしまった。今までだとビンだとか結構出たものがあるからついでにいろいろと持って来てくれましたが、紙とか布になっちゃうとなかなかやっぱり回収率が悪くなってしまった。</p> <p>あとこれはうちではないですけど、近隣の学校で、これは学校じゃなく各地域の各ステーションで集めていましたが、その担当はPTAの方がやっていましたが、このコロナ禍でPTAの活動が出来なくなってしまって、結局ステーションに集めることが出来なくて、もう資源有価物回収を辞めちゃったという学校も出て、やっぱりその辺は工夫が必要になってくるということを感じています。情報提供です。</p>
委員長	<p>大変重要な現状等お話いただきありがとうございます。学校教育って我々はフォーマル教育と言っていますけれども、学習施設みたいなところはノンフォーマル教育と言っています。家庭の躰とか地域でいかに共同でやっていくかというところからの学びというのは、インフォーマルと我々は呼んでいますが、それがうまく連携しあうことが今後大事だなというようなことを思っています。学校単位のいろんな活動などを今後どう考えていくのかというのは、長い目で見たら大変重要な取り組みかと思しますので、そういったところもまた、このごみ処理基本計画の中で議論することも重要な視点かと思えます。ありがとうございます。</p> <p>私の方からは、リサイクル率の向上のところ、プラスチックの問題ですが、プラスチック資源循環法という新しい法律が施行されました。これは生産者、製造者、売る側、また消費者、集めた後にリサイクルする側それぞれにおいての取り組みをいろいろ促進させていくための仕掛けや仕組みがルール化されてきているというところになります。私がちょっと言いたいのは、プラスチック類の組成割合が約24%なんですけれども、この24%をどう見るのかというところは是非ちょっと他市町村との比較、特にプラ容器包装を、その他プラとして分別して集めているところと比較をして頂きたいです。</p>

	<p>つくば市は3年くらい前にプラスチックの容器包装の分別を始めましたけれども、そうしますと可燃ごみ中のプラというのが大体 15~16%くらいまで減ってきていますので、こちらの方では資源物を集めてそこから容器包装とかプラごみを回収すると思いますけれども、ちょっと他の一般的な、そのものを分別するというやり方とは若干違ったやり方をされているところも理由としてあるのかなと思って、可燃ごみ中のプラ組成が割と高いなという感覚を持っています。だからこのプラ新法では容器包装だけじゃなくて製品プラスチックも一緒に集めていいですよというので、事業者も併せて新しいシステムを作ってくださいというような主旨が大変大きな特徴になっていて、今全国的にどういうそれぞれの地域に合った仕組みを作っていくのかというモデル事業の試行が始まっています。そこで、これこそ各市町にお任せするというよりは、印西地区くらいの単位で、プラ新法に対するどんな仕組みを作っていくのかということを考えるタイミングに来ているんじゃないかなというふうにも思いますので、そういう意味では今回の議論の大事なポイントにさせていただくといいかなというふうに思います。</p> <p>他いかがでしょう。ちょっとたくさん宿題が皆さんからもありましたので、大変有意義な議論が出来たと思います。それでは関連部分もまた出て来ると思っていますので、今度は将来の数字を見通してみたいということで次の議題に参りたいと思います。</p>
事務局	(2) ごみ排出量及び処理・処分量の将来推計結果 説明
委員長	<p>ありがとうございます。難しい議論かと思えます。あくまでもこれは回帰式といって、過去の傾向を表す数式の形はどれが一番良いかという話で、コロナの影響での不連続な傾向がここ 2~3 年あったので、そういう意味での直近での 5 年は難しい、だから 10 年でというところで、10 年のトレンドと最近の若干の変動を加味した形でもやっています。私が言うのもなんですが、どれが一番正しい式かという理屈はなくて、皆さんが見ていた中で、これくらいが、現状にも施策の強化をせずに変わらなければこんな感じですよというものです。</p> <p>次回に今度はこんな施策を強化して、対策を立てればこれくらいまでいけるのではないかとということで目標を高めていく、というような形になりますので、これは現状にも変えなかった時の成り行きシナリオと我々は呼んでいます。BAU と言っていますが、成り行きシナリオの場合の将来の予測として、だいたいこれくらいを考えて、そこからどれくらい頑張れるかというところで検討しましょうという、そのベースとなるところになります。</p> <p>ご質問等いただいて、最終的にはコンサルタントの方々はこちらの経験がございまして、私とか中山副委員長ともいろいろ検討して、適切か適切でないかというところ等は考えて行ければと思っておりますけれども、いずれにしても、現状皆さんからのご質問等受けながら理解を深めたいと思います。いかがでしょうか。</p>
鹿目委員	資料-31、この中で結果的に現状と前計画の比較があるのですが、現状では家

	<p>庭のごみで1日あたりの排出量が643.5g/人・日、かたや前計画は608.2g/人・日。35g位差があるということですが、これに影響するのは、将来人口だと思います。しかし、構成市町をみると、白井市と栄町は減少気味、ただ印西市は伸びますよということですよ。それで前回の計画でみると、印西市の比較をみると、今回印西市の人口がかなり増加傾向になっていますよね。これは新たな開発計画とかそういうのが合っているのですかね。あともう一つ、私が周りを見渡す限りは、物流倉庫とかデータセンター関係の施設等が建設されているのが感じられるのですが、いかがでしょうか。あとは北総線の値下げが大々的に報じられた、これも影響しているのか、いないのか、その辺はわかりませんが、なぜこんなに印西市は将来人口を増やしたのか、その辺の考えをお聞かせ願えますか。これはかなり左右すると思います。</p>
委員長	<p>全体の発生量のところと、排出量のところと、それから折れ線のところは一人あたりの排出量の原単位になっているので、これは人口には左右される、たぶん生活様式とかそういうところですね。これも含めて、ご質問にお答えできる場所ありますか。人口予測はどういう情報使っているかとか。</p>
事務局	<p>印西市の将来人口につきましては、資料・2に記載してあります「第2期印西市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に記載されている目標人口の方を採用しまして、人口予測をしております。</p> <p>増加の要因につきましては、印西市さんからお答えいただくことは可能でしょうか。</p>
印西市	<p>すみません、人口推計計画の資料を今手持ちでないもので、感覚的な話になってしまいますが、「第2期印西市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の数値ということもあるのですが、もうひとつ総合計画を策定している時に推計人口を見ていまして、やはり10年、11年記憶がはっきりしませんが、人口増加の計画になっています。なので、増加傾向になっていることは確かだと思います。あと実際、牧の原の南あたり、あと草深地区のほうとかも戸建ての開発が進んでおりますし、駅北側、東側の開発も進んでおります。</p>
委員長	<p>7、8年後位まで増加して、それから徐々に減少してくるといったようなことですかね。原単位が30g位違うという部分はやはりテレワークが今後定着していくのではないかとみたくところで、前回は家庭系・事業系増えている要因は何なのかというところは、今日参考資料でもご指摘があったところを、ちゃんと分析しないといけませんねというところがあったので、なにが要因かということの分析も踏まえて、この将来予測も改めてちゃんと考えないと、というところは重要な視点かなと思います。</p> <p>どの数式を当てはめるかということだけではなく、要因は何なのかということですね。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
梶山委員	<p>資料・32のほうがわかりやすいのではないかと。先ほど言われたように、式はおいておきまして、結局前回の計画というのは、過去の5年間のトレンドで</p>

	<p>出した数値という理解でいいですよ。それで出した値が下側の前計画で出すと、ほぼ変わらない、ただ、推計を変えてコロナの影響を入れた 10 年間で見ると、このように増えてしまうと。このまま次の目標がたてられるとは思わないのですが、ただ前回目標がトレンドで出したということは、基本的に目標をバックキャストで出していないということですよ。だから私は若干それに違和感があって、やはりこういう目標というものは、差分ですから、それに向かってどういう積極的な施策を打ってくるかという意識付けの問題でもあるので、達成できる・達成できないという責任論を問うつもりはまったくなくて、やはり皆さん、住民が主体となって目標に向かっていくんだという意識の醸成が一番重要だと思うので、国の目標は何か、もっと意欲的な印西市の目標をふっかけて、そのバックキャストに向かって現状の値を当てはめて計画を立てる、それは次の回だとは思いますが、そういう意識付けを持っていただきたいなと思います。現状のデータはわかりましたけど、前は「ただトレンドで出しました」ということであれば、そこはちょっと考えを改めていただければありがたいかなということ、お願いしたいかなと思います。以上です。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の提案は目標値をどう考えるかというところで、達成可能な目標を掲げて、行政としての責任というところを大事にするのは心理的に働くかもしれませんが、むしろ地域全体で目標としてここまで高い目標を掲げてやろうと、モチベーションを高める、そういったところの意味合いもある。そこからバックキャストで、ここまでやらないといけないんだよということも認識してもらおうという考え方もあると思います。フォアキャストで今からほしいこれくらい達成できそうかなという感じと、ここまでいかなきゃならない高い目標の中で、では何をすべきなんだというところと、将来の高い目標から何をすべきかという考え方をバックキャストというのですが、そういう考え方も大事というご指摘でした。</p> <p>他にいかがでしょうか。若干ここはテクニカルな要素を含みますので、今のバックキャストというところの次の目標値の設定の議論を含めて、現状の施策の延長上で、これくらいしか達成できないから、更に何をやらなきゃいけないのかという認識が重要になってくるので、そういったところも併せて、将来推計をどうするかというところは検討していきたいと思います。このあたりは事務局、コンサルタント、あと私のほうも責任を持って考えていきたいです。このあたりで議論はよろしいでしょうか。</p> <p>それでは将来予測の件はこれくらいにしまして、次の議題(3)、ちょっと毛色が変わるテーマになりますが、ただ大事な議論ですので、(3)災害廃棄物処理計画の作成状況について説明していただきたいと思います。事務局の方からよろしく願いいたします。</p>
事務局	(3) 災害廃棄物処理計画の作成状況 (推計結果等) 説明
委員長	ありがとうございました。

	<p>災害も毎年毎年全国的に起きているので、日常化してきているというふうにも思います。先ほどの地震の時の3市町の発生量26万8千tとか、あるいは水害で印西市だけでも60万t、構成市町含めて100万t近くなるのではないかなというような、これは最大ケースかもしれませんが、こういった予測もされていますが、そうなる通常のごみ処理でも1年間3市町で4万tちょっとくらいですので、20～25年分が一気に出てくるといったような話になるので、それをどう捌くかということで、通常は仮置場を作って、公有地がないところは学校の校庭をお借りして、そこにしばらく置いて学校が始まる前になんとか撤去してくれないかみたいなことは過去の災害でも散々現場で様々な苦勞の中で、いろいろな災害ごみの片付け等もやってきている実績もありますので、あまり他人事ではない問題なのではないかということも少しずつ認識いただけているのではないかと思います。</p> <p>何かご質問ありますでしょうか。</p>
鹿目委員	<p>スライド2枚目の目次の「2. 印西組合の災害廃棄物処理計画目次(案)」の中の「3. 協力・支援体制」というのがありますが、構成市町、自衛隊、民間事業者、ボランティア等いろいろありますが、災害が全国的に起こっているのでそれを支援するために国が災害対応のエキスパートを派遣しますよ、という話がでています。ですので、経験のある人を人材バンクとして登録して、それを随時必要な時に派遣するという話も聞いていますので、その辺の活用法もこの辺に入れておいた方が宜しいのではないのでしょうか。</p>
委員長	<p>中山副委員長、補足ありますでしょうか。</p>
中山委員	<p>私もおっしゃられた通りのことを申し上げようかなと思っていたところで、スライド8枚目に体制図があるんですが、ここで国とか環境省、D.Waste-Net等がある横あたりに人材バンク制度を入れるか、あるいはおっしゃられた通りに、千葉県の場合は房総半島台風で運悪く被害にあってしまったその経験をもっている自治体職員の方がたくさんいらっしゃるの、そういった方達の支援を得るという意味ではもしかしたら千葉県内の体制なのかもしれないのですが、経験のある方はたぶん人材バンクに登録されると思いますので、それは加えておいたほうが良いのではないかと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。事務局のほうから補足ございますか。今のご意見は入れていただいて、人材バンクというのはどういう制度なんだというところは理解いただいて、人材バンクというのもありますし、我々の研究機関が入っているD.Waste-Netという専門家が支援する枠組みもありますし、それから対口支援という形で、相互の支援関係の中で支援いただくケースもありますし、そういったところもたぶん協力・支援体制の議論の中に含んでいるという事務局のご理解の中で今は整理されていると思うので、もう少し具体的に書き込んだりして教えていただければと思います。</p> <p>中山副委員長のところで人材バンクとかいろいろなお仕事をされていますので、他にありますか。</p>

中山委員	<p>整備計画中の施設がどのような災害対応が出来るかということも、出来るだけ計画に入れておいていただけると、施設に対する受入といいますか、理解とか親和度が高まってくるのではないかなと思います。たぶん災害が起きた後の復旧に向けた対応というの、いろいろ計画されていると思いますので、まだ見えないところもあると思いますが、書ける範囲で書いておくと良いのではないかなと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>この計画でどこまで書き込むかというところはありますけれども、どういうことを検討していくかが大事だということは、出来るだけ入れていただいて、例えば新しい施設のところで災害廃棄物の受入を想定された処理規模になっていると思うのですが、ではそこで選別したりとか、取りあえず置いておく仮置場みたいなものを施設周りの土地をどこか確保しておくのかとか、そういうことは、たぶん今の議論はなかなかそこまで具体的にはいけないし、あまりどこまで想定されるかというところの要素を持ち込むと、頭の整理もしにくくなるかもしれないとは思いますが、特に仮置場の設置はあまり私有地にご迷惑をかけないところで、どれくらい公有地の仮置場として出来そうなどころがあるのかといったところは、新施設との距離関係とか、いろいろなことも、当然考えなければならない場面が来ると思います。そういうことが大事だということは明確にしておいたほうが良いかなと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
船越委員	<p>参考までに教えていただきたいのですが、今ご説明いただいた組合の災害時の対応どうするかということですが、災害時の仮置場どこにするのか、そういったところはどの程度見込んでいるのか。</p>
委員長	<p>実際に災害廃棄物処理計画をつくられたのはどちらですか？</p>
印西市	<p>災害廃棄物処理計画は、今ここでお示しされているように、地域防災計画の見直しがあって、想定量とかも変わりましたので、今年度、市としても見直しをかけております。その中で、災害廃棄物の発生量から仮置場に必要な面積、あとハザードマップを踏まえた仮置場の面積量等も検討しまして、その中で優先順位、どのような考え方で指定していくか整理しているところでございます。</p>
委員長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>具体的に検討はされていて、実は我々も災害廃棄物処理の研究もしてきましたのですが、事前にここに作りますよという合意を得た方が良いのかどうかという議論がありまして、やはり自分の近くにそういうごみ一杯集まってくることは、平時において、なかなか事前に合意を得てというのは難しいところもあります。災害時において事前に候補地があって、こういう考え方で選定していくという考え方を自治体としては持っていて、いざ災害が起こった場合にそれを住民との間で調整していくというケースが圧倒的に多いのは多いですね。ただ、公有地で場所があれば良いですけど、無い場合は大変苦労するので、事前</p>

	<p>に自治体の方でいろいろな具体的な候補地を考えておられるというふうに理解しています。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
中山委員	<p>印西市で 60 万 t が発生するという場合、処理に掛かる費用というのが、そうすると 300 億円掛かるということでもあるので、それは国からの補助金も出るところではありますが、出来るだけごみを出す段階、災害時であっても出来るだけ分別をして出す、危険な物と燃えるものを一緒に出さないとか、そういった基本的なところは住民とかが認識しておくべきところになるので、今後啓発とか、平時の時から皆さんにも理解しておいていただくと良いのではないかなというところで、啓発にも取り組んでいきますという計画にさせていただきいかなと感じました。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>自治体とかそれを処理する事業者の方だけの関係づくりと日頃から訓練することも大事ですけれども、最初にごみを出すのは住民の方々ですので、非常時にどこまで協力していただけるかというのは日頃の備え、信頼関係づくりです。そういう意味では、広報、啓発が大変重要です。そういったところも強化して取り組んでいくような計画になるのが望ましいなというところは同感ですので、引き続き進捗もご報告いただきながら皆さんと議論深められたらと思います。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは最後の議題になりますけれども、アンケートというところで、前回皆さんに見ていただいてご意見をいただきました。大変丁寧に見ていただいて、重要な意見をいただいて、それをすべて反映というわけにはいかなかったですけれども、出来るだけ考慮した形でまとめていただいております。ご説明のほう簡単によろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>(4) 住民・事業所へのアンケート 説明</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>多くの意見をいただいて、採用してないものも考えに考え抜いて、今回は総合的にみてそぐわないかなというところは、そのままの案にしてある部分もありますけれども、いずれにしても大変ありがたく、いろいろな意見いただいたので、良いアンケートになったのではないかと思います。</p> <p>はがきの問題は、私も若干思わないわけでもないのですが、前回もはがきで収めたということで、事務局のお考えを了解したというところではありますけれども、例えば問合せ先のところにメールアドレスあまり入れないものですかね。つまり、書ききれない思いをメールでお伝えしてくる方がいらっしやらないかなど。電話番号は書いてありますが、ちょっと難しいでしょうか。組合としてメールアドレスは公開していますか？</p> <p>こだわわるわけではないが、検討してみてください。</p>
事務局	<p>調整してみますが、メールアドレスは入れた方が意見は集まる可能性があるもので、メールアドレスを入れる方向で検討してみます。</p>

小熊委員	<p>前回質問し忘れてしまって、事業者の方の間4のところですが、処理費用の公平化を図るところですが、参考として「現在の手数料 270 円/10kg」と書いてありまして、2行目に「実際の処理に掛かる経費 365 円/10kg」と記載されていますが、これの意味というのはどういうことですか。</p> <p>収集運搬というのは直接業者さんと契約されているわけですよね。持ち込んだものの処理にこれだけかかりますよというふうに捉えると、この270円というのは金額の違いを訴えるわけですかね。</p>
事務局	<p>「実際の処理に掛かる経費 365 円/10kg」と書いてあるのですが、これは一般廃棄物実態調査の数値の方から引っ張ってきていまして、こちらの実態調査には収集運搬費込みの金額で入っています。そのため、この数値は収集運搬費込みの実際の処理に掛かる経費が記載されています。</p>
小熊委員	<p>焼却やその後最終処理をした分での金額というふうな形に事業系だけで算出は出来ないですよね。家庭ごみも全部含めて、持ち込まれた以降の処理がこの金額になるということですかね。</p>
事務局	<p>この金額に関しては、持ち込まれた以降の金額+収集運搬費のほうも含んでいます。</p>
委員長	<p>これを載せることの適切さということだと思のですが、上の方に「ごみ処理費用の公平化」ということを言っている手前、270 円/10kg というのは持ち込んだ際に、その事業者に対して課せるわけですか？</p>
事務局	<p>そうですね。今こちらでお金を取っているのは事業者の事業系ごみで、それが270 円/10kg となっています。</p>
委員長	<p>そういうことですよね。排出者は収集運搬の方には別途契約してお金を払っているわけですよね。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
委員長	<p>だからそういう意味では365円と270円はベースが違うということなので、これをこのまま書いていて大丈夫でしょうかということですが。</p>
事務局	<p>私も気になったところではあったのですが、前回アンケートの金額が一般廃棄物処理実態調査から引っ張ってきた全体の処理量の金額になっていたのも、それに倣うような形で記載してしまったところがあります。</p>
委員長	<p>すみません。私も前回そこまで気を使っていなかったようで、今のご質問すごく重要なところなので、本当は細かくごみ処理の会計を紐解くと、収集運搬の部分は、量の案分とか、いろいろと考えれば数字は出てこなくはないと思いますが、このために作る数字になるので公式なものとはまたちょっと違ってくると思います。</p>
山谷委員	<p>実際の処理に掛かる経費というのは、この印西クリーンセンターにおける中間処理費+最終処分費でないといけないわけですよね。</p> <p>収集運搬費は収集運搬許可業者を市町のほうで許可する、2市についてはこの組合のほうで許可しているのかどうかわかりませんが、いずれにせよ先ほど委員長がおっしゃったように、収集運搬費は排出業者さんが払っている</p>

	わけですよ。そういう意味では、この実際に掛かる経費というのは、中間処理費+最終処分費でなければならない。実際、このぐらいのものかと思しますので、確認していただければ良いかと思ます。
委員長	<p>数字はなんとなくこんな感じかなと。全国平均だけれども、全国の数字も多分、分解できるような形になっていると思うので、処分に掛かる費用というところで、そこに全国平均値とか明示的に書いておいたほうが良いかと思ます。現状では誰が見てもこれが印西地区の方で掛かっているお金だろうなと思ますよね。また後で私も確認しますが、今の意見を踏まえて最終調整させていただきます。</p> <p>ありがとうございます。他にいかがでしょうか。</p>
鹿目委員	<p>今回これからアンケート調査という形で、住民と事業者に向けてやると思うのですが、その場合は全住民、全事業者にやれば良いのでしょうかそういうわけにもいかない、となると絞り込む必要が出てくるかと思ます。その絞り込みの基準はありますか。地区、年齢、性別等、住民に関してはどういう区分けでまずトータルの人数の対象はこれにしましたよというのがありますかね。</p> <p>また、事業者へのアンケートについては、規模別、業種別の選定等もあると思ます。その辺の絞り込みの基準について教えていただけませんか。</p>
事務局	<p>絞り込みを依頼した時の書類を手持ちで持っていないため、記憶の話になってしまうのですが住民の方は、年齢は20~79才まで。20代、30代、40代、50代、60台以上。それぞれ均等になるようにという依頼でお願いしてあります。男女も均等になるようにお願いしています。後は地区毎に人数比率で均等になるように抽出をお願いしているところです。</p>
鹿目委員	<p>郵送する住民のトータルはどのくらいですか。</p>
事務局	<p>住民宛は1900通です。</p>
鹿目委員	<p>全住民の何%の人になりますか。</p>
事務局	<p>人口は19万~20万人位なので1%です。</p>
鹿目委員	<p>では事業者はどのような基準ですか？規模別とか、業種別とか、大中小ありますよね。あとは何事業所でしょうか。</p>
事務局	<p>事業者の数は構成市町全部合わせて100です。基本的には紙ごみを出すところというイメージでお願いしておりまして、事業者についてはそもそも対象が100しかなくて、それを印西・白井・栄で分けてしまうとそれぞれ60、30、10くらい、ちょっと細かい数値は違うと思ますが、それくらいの数値になってしまうので、あまり細かく、この業種はこの数といった区分けはしていません。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。他にないでしょうか。</p> <p>それではまだ完全ではないところもあるかもしれませんが、次の議会には結果を踏まえてある程度分析・解釈した上で、計画のほうの議論にも反映させることで、時間的なスケジュールもありますので、先ほどの件は早急に確認しますけれども、確定して配布したいと思ます。ご意見いただきありがとうございます。</p>

	<p>いました。</p> <p>それでは今日の議題これで終わりましたが、全体を通して何かありますか、あるいは言っておきたいこと等あればお願いします。</p>
鹿目委員	<p>今回で3回目の検討会になりますが、以前の議事録を郵送か、メールか何かで、決まった時点で共有頂ければと思います。今後参考にしたいので。</p>
事務局	<p>議事録ですが、署名委員に署名いただいた後は、全てHPで公開しているような状況になります。</p>
鹿目委員	<p>すぐにHPから出てきますかね。</p>
事務局	<p>皆さんのメールアドレスを把握していますので、メールアドレスの方にHPのアドレスを送付させていただきます。もしくはPDFでそのまま前回の会議録でしたら送らせていただいてもいいと思いますので。</p>
委員長	<p>私も詳しく見ていませんけれども、HPには最初に撮影した皆さんの集合写真も載っていますか？</p>
事務局	<p>集合写真は載せていません。会議録で載っているのは、議事録と、使用した資料になります。</p>
委員長	<p>組合さんの議論というのは公開というのが大変先進的にやっておられるので、すべての資料を公開されています。議事録もそういうことですので。</p>
事務局	<p>集合写真は現状では予定にないのですが、計画を策定した後に、こういった委員会で策定しましたということで広報に掲載する予定ですけれども、ただその時の広報の記述ページの関係で集合写真まで載せられるかどうかわかりません。</p>
委員長	<p>皆さんの顔も写って良いということであれば、また最後の方でそこら辺も工夫いただければと思います。</p> <p>それでは、これで今日の議題は終了としたいと思います。事務局のほうにお返しいたします。</p>
次第4 閉会	
事務局	<p>大迫委員長お疲れ様でした。</p> <p>最後になりますが、事務局からお知らせがございます。</p> <p>福本委員がご欠席なので、確認取れないのですが、7月23日(土)の14時から16時に千葉県ユニセフ協会が千葉県教育会館大ホールを会場に、「マシンガンズ滝沢さんと考えよう！SDGsと環境問題」という講演会を開催します。もしご関心がある方は、千葉県ユニセフ協会のHPを開いていただきますと、ご案内がでております。こちら事前申し込みが必要ということで、千葉県ユニセフ協会のHPを確認していただければと思います。</p> <p>次回、第4回検討委員会の日程のお知らせですが、当初の通り、8月21日の開催予定となります。資料作成の関係上、開催通知が直前となってしまいますが、ご承知いただければと思います。</p> <p>今回の開催通知等から、メールで送付させていただいており、受け取れる確認はしたのですが、資料が読みづらい等で、文書での送付を希望される方</p>

<p>いましたら、事務局まで言っていただければ、文書で送付いたしますのでよろしくお願いたします。連絡は以上です。</p> <p>委員の皆様から何かありますでしょうか。</p> <p>無ければ以上を持ちまして第3回印西地区ごみ処理基本計画検討委員会を閉会といたします。本日は大変ありがとうございました。</p>
--